

Sustainability Report

サステナビリティレポート2023 *2023*



株式会社 **六 協**
Rokkyo Co., Ltd.

目次

1. 組織の概要	P3
2. 対象組織	P4
3. 実施体制	P4-5
4. サステナビリティ経営方針	P6
5. サステナビリティ経営計画	P7-8
6. サステナビリティ経営目標	P9-11
7. 取組結果	P12-15
8. サステナビリティ活動報告	P16-27
9. 代表者による全体評価の見直しの結果	P28

1. 組織の概要

事業所名	株式会社 六 協		
代表者名	代表取締役社長 河西 徹		
所 在 地	本社	〒393-0056 長野県諏訪郡下諏訪町5259番地	
	リサイクルセンター	〒393-0008 長野県諏訪郡下諏訪町2267-1 和田峠上り口	
	松本営業所	〒390-0841 長野県松本市渚 2 丁目 7 -33	
	岡谷営業所	〒394-0083 長野県岡谷市長地柴宮 2 - 2 - 13	
設 立	昭和43年10月14日		
資 本 金	4,300万円		
環境管理責任者	代表取締役社長 河西 徹		
担当者連絡先	経営企画室	武村	
事業の内容	建設業 ・ 一級建築士事務所 ・ 宅地建物取引業		

事業規模	主要な経営指標等の推移				
回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	2019年 4 月	2020年 4 月	2021年 4 月	2022年4月	2023年4月
売上高（万円）	153,817	139,535	192,611	141,732	308,792
経常利益（万円）	8549	7,071	13,624	5,718	13,734
純損益（万円）	8,015	4,083	8,878	▲1,575	9,347
純資産額（万円）	59,471	63,057	71,604	69,531	78,548
総資産額（万円）	108,023	135,366	152,452	134,054	179,921

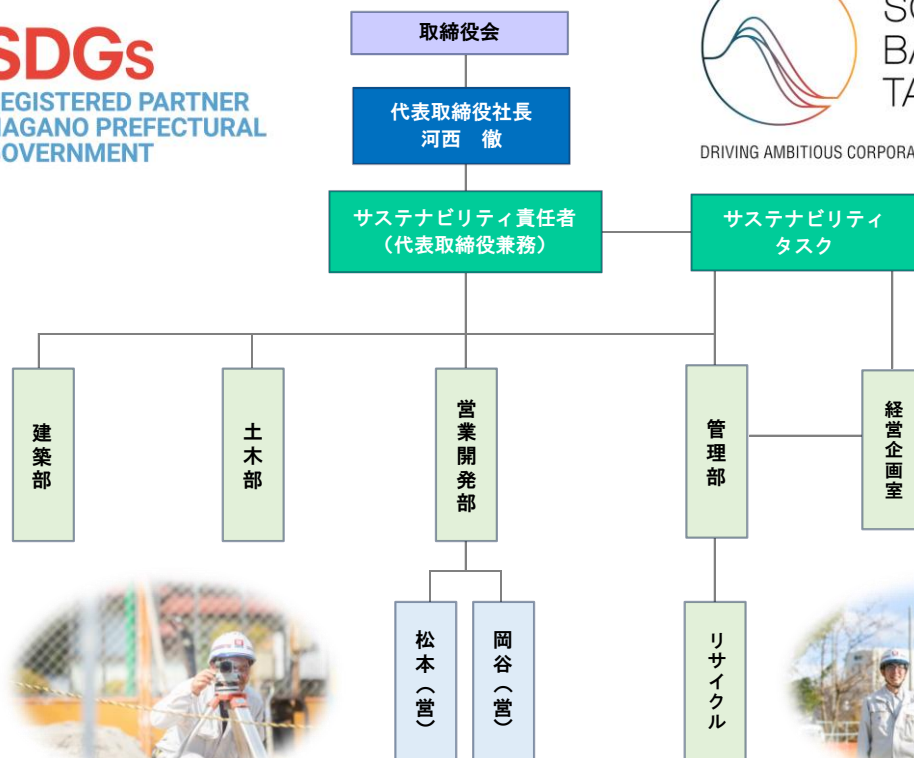
2. 対象組織・活動

事業所名	株式会社 六 協		
本店所在地	本社	〒393-0056 長野県諏訪郡下諏訪町5259番地	
対象事務所等	リサイクルセンター ・ 松本営業所 ・ 岡谷営業所 ・ （各建設現場）		
活動	建設業 ・ 一級建築士事務所 ・ 宅地建物取引業		

3. 実施体制



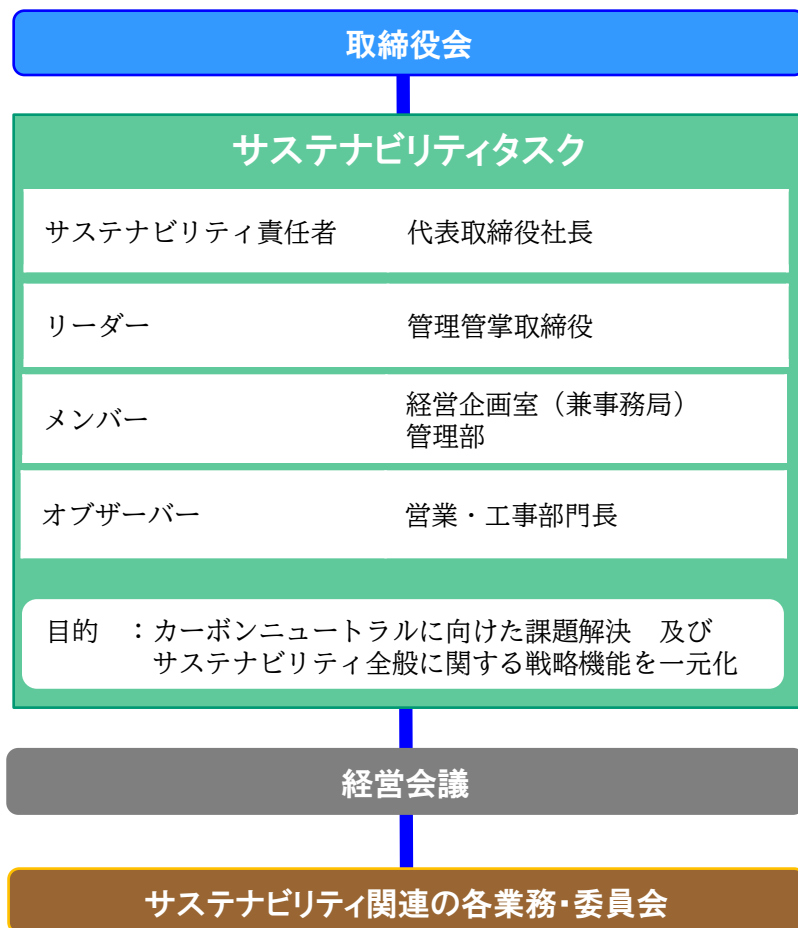
SDGs
REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL
GOVERNMENT



3. 実施体制（サステナビリティ経営推進体制図）

サステナビリティ経営推進体制図

（2022年5月1日現在）



サステナビリティ経営の推進体制

当社は2022年5月 中期5ヵ年経営計画 目指すべき姿として Sustainable Construction（持続可能な建設）を掲げています。

サステナビリティタスクとは、カーボンニュートラルに向けた課題解決及びサステナビリティ全般に関する戦略機能を一元化しています。例としてSBT認証（注）の取得においてはサステナビリティタスクが主導し、取締役会に提出、バックキャストिंगの目標設定であることを共有し、中小企業版SBT認証取得に至っています。

経営会議とは部長職以上で構成し、企業の経営方針、事業の進捗状況、実績などについて議論する会であります。サステナビリティに関連する重要事項については「品質環境委員会」の審議等を経て、経営会議、サステナビリティタスク及び取締役会に付議されています。なお、委員会とは前記の他に「安全衛生委員会」「交流委員会」で構成されています。

取締役会で審議・決定された議案は、当社の各担当部門長及び全社へ通達し、それぞれの経営計画・事業運営に反映しています。

また、その内容は、必要に応じて具体的な実施事項に織り込まれ、取引先にも協力を要請することとなります。

（注）SBT「Science Based Targets」の略です。SBT認証では、パリ協定（世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準(Well Below 2℃)に抑え、また1.5℃に抑えることを目指すもの）が求める水準と整合しており、中小企業は、1.5℃の科学的根拠に沿った目標を設定する必要があります。

4.サステナビリティ経営方針

株式会社六協は、長野県下諏訪町の総合建設企業とし、地域で一番信頼され選ばれ続ける企業を目指してまいりました。建築・土木・解体設備工事・不動産取引など、お客様へワンストップでサービスを提供できる事が当社の強みです。

当社は創業以来「至誠」という社是を胸に、誠を尽くした仕事を行ってまいりました。これまでに培った経験や技術力は信用となります。その信用を土台とし、信頼し合える仲間と共に、地域で一番信頼される会社であるために「共に生きる」という経営理念の実践を通じてサステナビリティ課題の解決を図り、持続的な企業価値向上を目指しております。

中期経営計画においては、当社の目指すべき姿である「持続可能な建設（Sustainable Construction）」の実現を掲げております。建設事業を通じてサステナビリティ課題の解決やリスクの減少のみならず、新たな収益機会にもつながることを認識し、積極的に取り組むこととしております。特に環境関連の動向につきましては、日本を含む世界的なカーボンニュートラル実現に向けた脱炭素化の取組みが加速していることから注視してまいります。

当社は全社一丸となって法令遵守のもと以下の方針により持続可能な社会の実現へ貢献します。

1. マテリアリティ（取り組むべき重点課題）

社会の関心や社会課題を認識するとともに、経営への影響を踏まえ、以下のマテリアリティを特定しております。

- ① 企画・設計段階で、省エネルギー・省資源、CO₂削減等をお客様へ提案、当社も省エネルギーを推進してCO₂排出量を削減
- ② 循環型社会を実現するため、建設廃棄物の分別・減容化を推進、再資源・再利用に取り組む
- ③ 自然と共生する事業の最大化
- ④ 品質向上と顧客満足度の向上
- ⑤ 働きがいのある魅力的な職場環境の実現
- ⑥ 労働安全衛生管理の改革
- ⑦ コンプライアンスの徹底



制定日：2022年5月1日

株式会社 六 協

代表取締役 河西 徹

5.サステナビリティ経営計画

■気候変動（リスクと機会）
気候変動に伴うリスクと機会には、気温上昇を最低限に抑えるための規制の強化や市場の変化といった「移行」に起因するものと、気温上昇の結果生じる急性的な異常気象といった「物理的」変化に起因するものが考えられます。

分類	リスク／機会		内容	影響度
移行	CO2排出量取引、CO2排出規制強化による建設市場の縮小	リスク	CO2排出量取引の導入、CO2排出規制強化にともない建設市場は縮小	中
	資材等の高騰による建設コストの上昇	リスク	更に建設資材や電力料金の高騰による建設コスト増加	大
	省エネ・再エネ関連需要の増加	機会	ZEB関連の需要増加、再生可能エネルギー関連工事の需要拡大	中
	リニューアール需要の増加	機会	既存施設のエネルギー効率向上に向けたリニューアール需要増加	中
物理的	自然災害の深刻化・頻度上昇	リスク	被災による作業停止、工程遅延、それにともなう人件費等の増加	大
		リスク	取引先の被災による調達コストの増加や工程遅延	大
		機会	災害対策として施設・インフラを強化する顧客の増加	大
		機会	より大規模な災害に備え、移転需要にともなう新設工事等の増加	大

■気候変動の対応策
気候変動への対応策を立案、サステナビリティ経営計画 **Rokkyo Green Target** に反映しております。

CO2排出量取引、CO2排出規制強化による建設市場の縮小への対応	・再生可能エネルギーへの取組み強化 ・新エネルギー（バイオディーゼル燃料等）の検討と導入
資材高騰等による建設コスト上昇への対応	・建設廃材の再利用、環境配慮資材調達の拡大
省エネ・再エネ関連需要の増加への対応	・ZEBの実用化とエネルギーサポートサービスの展開
リニューアール需要の増加への対応	・リニューアール専門組織との企業連携の強化
自然災害の深刻化・頻度上昇への対応	・災害時協定を含め、BCP体制の進化と定期訓練実施による事業継続体制を確保

5.サステナビリティ経営計画

Rokkyo Green Target

持続可能な環境配慮型社会へのロードマップ

2023年		2030年	2040年	2050年	
脱炭素社会		カーボンニュートラル	Scope1+2 ▲42%	再生可能エネルギー	CO2排出量ゼロ
スコープ1	建機・車両等	・ハイブリッド・省エネ型建機の導入			
	新エネルギー	・新エネルギー検討・導入		・新エネルギー活用	・新エネルギー活用
スコープ2	再生エ電源	・発電設備の保有促進	・蓄電利用による熱量効率化	・再生エネルギーの保有	
スコープ3	ZEB	・サステナブル建築の事業性検討	・サステナブル建築の施工・普及推進	・サステナブル建築の普及拡大	・サステナブル建築の普及拡大
	脱炭素貢献建材	・環境配慮建材の普及促進	・脱炭素貢献建材の普及拡大	・脱炭素貢献建材による事業化	・脱炭素貢献建材の社会浸透
	建設廃材	・建設廃材利用の仕組みづくり	・再利用可能な資源の調達拡大	・再利用資源の事業化	・再利用建材等の社会浸透

循環型社会		サーキュラーエコノミー		建設廃棄物の最終処分率 半減		グリーン調達100%	
建築廃棄物	・分別・減容化の推進		・再資源化・再利用資材のの促進		・再資源化・再利用資源の事業化		
建設発生土	・建設発生土の管理体制の再構築		・建設発生土の活用促進		・建設発生土の活用拡大		・サーキュラーエコノミーの実現
グリーン調達	・設計施工案件での積極採用		・サプライチェーンへの働きかけ		・グリーン調達的大幅拡大		

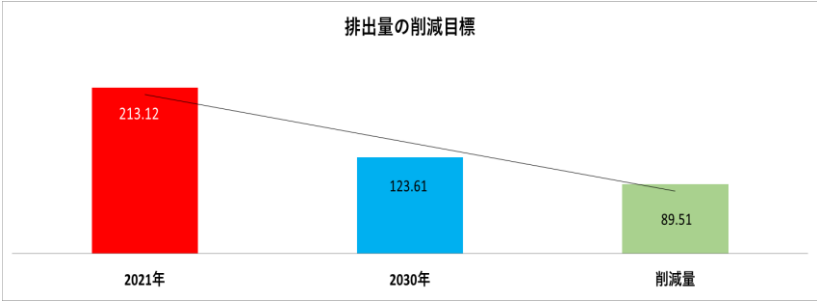
自然共生社会		ネイチャーポジティブ	ネイチャーポジティブへの貢献	自然と共生する事業の最大化
持続可能な調達		・持続可能な調達にかかる実態調査	・持続可能な代替素材への移行	
ネイチャーポジティブに貢献する (生物多様性の維持)		・脱廃プラへの対応	・持続可能な代替素材への移行	・すべての資材の持続可能な調達への移行
		・水利用の削減	・規定する削減率の達成	
		・廃棄物の削減	・規定する削減率の達成	・自然を回復するインフラ事業の実践
		・科学物質の削減	・規定する削減率の達成	・自然と共生するライフスタイルの創造

6.サステナビリティ経営目標（SBT認証基準）

目標水準	Scope	基準年	目標年	単位	削減量
1.5℃	1 & 2	2021年	2030年	総量	42.0% 削減する。

CO2排出量の推移

2021年	213.12	t-CO2/年
2030年	123.61	t-CO2/年
削減量	89.51	t-CO2/年



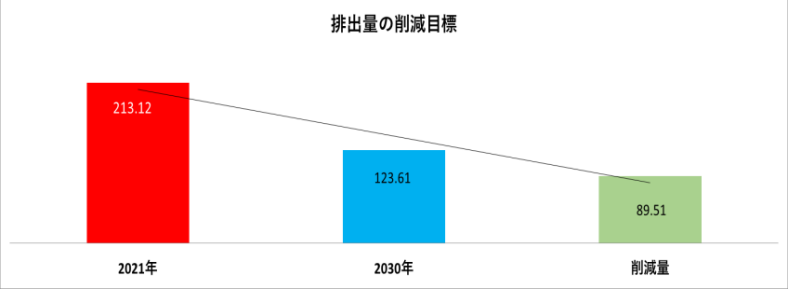
項 目	内 容	
2021年基準年のGHGインベントリ	●Scope 1・2の排出量の状況 (2021年 基準年) (注) SBTとは、「Science Based Targets」の略で、国際的な枠組みである「パリ協定」が求める水準と整合した、5～10年先を目標として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のことです。	●Scope 1 : <u>168.89【tCO2】</u> ●Scope 2 : <u>44.22【tCO2】</u> ●TOTAL 2021年 CO2排出量 <u>213.12 t -CO2／年</u>

6.サステナビリティ経営目標

目標水準	Scope	基準年	目標年	単位	削減量
1.5℃	1&2	2021年	2030年	総量	42.0% 削減する。

CO2排出量の推移

2021年	213.12	t-CO2/年
2030年	123.61	t-CO2/年
削減量	89.51	t-CO2/年



年 度		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
		(基準値)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
電気・CO2削減	kWh	114,230.00	108,895.46	103,560.92	98,226.38	92,891.84	87,557.30	82,222.75	76,888.21	71,553.67	66,390.48
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	58.12
	売上高原単位	Kwh/千円	0.0806	0.0768	0.0731	0.0693	0.0655	0.0618	0.0580	0.0505	0.0467
	t-CO2	44.22	42.16	40.09	38.03	35.96	33.90	31.83	29.77	27.70	25.70
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	58.12
	売上高原単位	kg-CO2/千円	0.0312	0.0297	0.0283	0.0268	0.0254	0.0239	0.0225	0.0210	0.0195
	kg	3.60	3.43	3.26	3.10	2.93	2.76	2.59	2.42	2.26	2.09
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	57.97
プロパン・CO2削減	kg/千円	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
	t-CO2	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	57.97
	売上高原単位	kg-CO2/千円	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
灯油・CO2削減	ℓ	6,537.61	6,232.30	5,927.00	5,621.69	5,316.38	5,011.08	4,705.77	4,400.47	4,095.16	3,789.85
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	57.97
	売上高原単位	ℓ/千円	0.0046	0.0044	0.0042	0.0040	0.0038	0.0035	0.0033	0.0031	0.0029
	t-CO2	16.28	15.52	14.76	14.00	13.24	12.47	11.71	10.95	10.19	9.43
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	57.97
	売上高原単位	kgℓ-CO2/千円	0.0115	0.0109	0.0104	0.0099	0.0093	0.0088	0.0083	0.0077	0.0072
ガソリン・CO2削減	ℓ	34,664.42	33,045.59	31,426.76	29,807.93	28,189.11	26,570.28	24,951.45	23,332.62	21,713.79	20,094.96
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	57.97
	売上高原単位	ℓ/千円	0.0245	0.0233	0.0222	0.0210	0.0199	0.0187	0.0176	0.0165	0.0153
	t-CO2	80.48	76.72	72.96	69.20	65.45	61.69	57.93	54.17	50.41	46.65
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	57.97
	売上高原単位	kgℓ-CO2/千円	0.0568	0.0541	0.0515	0.0488	0.0462	0.0435	0.0409	0.0382	0.0356
軽油合計・CO2削減	ℓ	27,899.24	26,596.35	25,293.45	23,990.56	22,687.66	21,384.77	20,081.87	18,778.98	17,476.08	16,173.19
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	57.97
	売上高原単位	ℓ/千円	0.0197	0.0188	0.0178	0.0169	0.0160	0.0151	0.0142	0.0132	0.0123
	t-CO2	72.12	68.75	65.38	62.01	58.65	55.28	51.91	48.54	45.18	41.81
	基準年度比		95.33	90.66	85.99	81.32	76.65	71.98	67.31	62.64	57.97
	売上高原単位	kgℓ-CO2/千円	0.0509	0.0485	0.0461	0.0438	0.0414	0.0390	0.0366	0.0342	0.0319
SCOPE1		t-CO2	168.89	161.01	153.12	145.23	137.34	129.46	121.57	113.68	105.80
SCOPE2		t-CO2	44.22	42.16	40.09	38.03	35.96	33.90	31.83	29.77	27.70
SCOPE1+2 (TOTAL)		t-CO2	213.12	203.16	193.21	183.26	173.31	163.35	153.40	143.45	133.50
産業廃棄物の削減 (4月-3月/年) 3R実践協定勘案	t	5,942.27	3,645.50	3,022.00	3ヵ年毎	3ヵ年毎	3ヵ年毎	3ヵ年毎	3ヵ年毎	3ヵ年毎	3ヵ年毎
	基準年度比		61.35	50.86							
	売上高原単位	kg/千円	4.19	2.57	2.13						
	m³	517	509	501	494	486	478	470	463	455	447
水道水の削減	基準年度比		98.50	97.00	95.50	94.00	92.50	91.00	89.50	88.00	86.50
	売上高原単位	ℓ/千円	0.365	0.359	0.354	0.348	0.343	0.337	0.332	0.326	0.321

6.サステナビリティ経営目標

(指標及び目標)

中期経営計画（2022-2026）に基づく、各マテリアリティは以下のとおりであります。
マテリアリティの指標及びサステナビリティ関連の重点施策については、その進捗状況をサステナビリティタスクが確認しております。その上で、関連する委員会、経営会議、サステナビリティタスクで事前審議を行い、取締役会に定期的に報告しております。
なお、取締役会が定期的に審議・監督を行うことにより、その実効性を確保しております。

<マテリアリティ、指標及び目標>

マテリアリティ	指標	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			目標	目標	目標	目標	目標	目標
■Environment: 持続可能な社会の実現								
・脱炭素社会への貢献	・CO2排出量削減（Scope1+2）	t -CO2	新設	▲4.67%	▲9.34%	▲14.01%	▲18.68%	▲23.35%
・循環型社会、自然共生社会への貢献	・中規模木造建築の推進 施工実績	件	-	-	新設	1件以上	1件以上	1件以上
	・産業廃棄物の排出量削減（売上原単位）	kg/千円	新設	2.57	2.13			
	産業廃棄物量	t	新設	3,645.50	3,022.00	3ヵ年毎	3ヵ年毎	3ヵ年毎
	・水道水の削減（売上原単位）	ℓ /千円	新設	0.359	0.354	0.348	0.343	0.337
	・水道使用量	m³	新設	509	501	494	486	478
	・グリーン購入法適合品	品目	-	-	新設	2件以上	2件以上	2件以上
■Social: 安全で快適な社会の実現								
・品質向上と顧客満足度の向上	・社内「基準」による品質パトロール実施率	%	新設	100%	100%	100%	100%	100%
	・（土木）工事成績評定対象年度平均点	点	80点以上	80点以上	80点以上	80点以上	80点以上	80点以上
	・（建築）お客様満足度アンケート	点	-	-	新設	80点以上	80点以上	80点以上
■Governance：働きがいのある魅力的な職場環境の実現								
・ワークライフバランスの推進	・定年再雇用率・継続雇用率	%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
	・離職率	%	5%未満	5%未満	5%未満	5%未満	5%未満	5%未満
	・有給休暇取得率	%	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上
	・男性社員の育児休業の取得率	%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
・労働安全衛生の推進	・死亡・重大災害の発生件数	件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	・安全衛生大会（2年に一度の開催）	回	-	1回	-	1回	-	1回
・コンプライアンス	・重大なコンプライアンス違反	回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
	・情報セキュリティ事故件数	回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
	・BCP訓練実施率	回	1回	1回	1回	1回	1回	1回

7.取組結果

■2022年度CO2排出量（Scope1+2） 223.41 t-CO2 昨年比104.83%

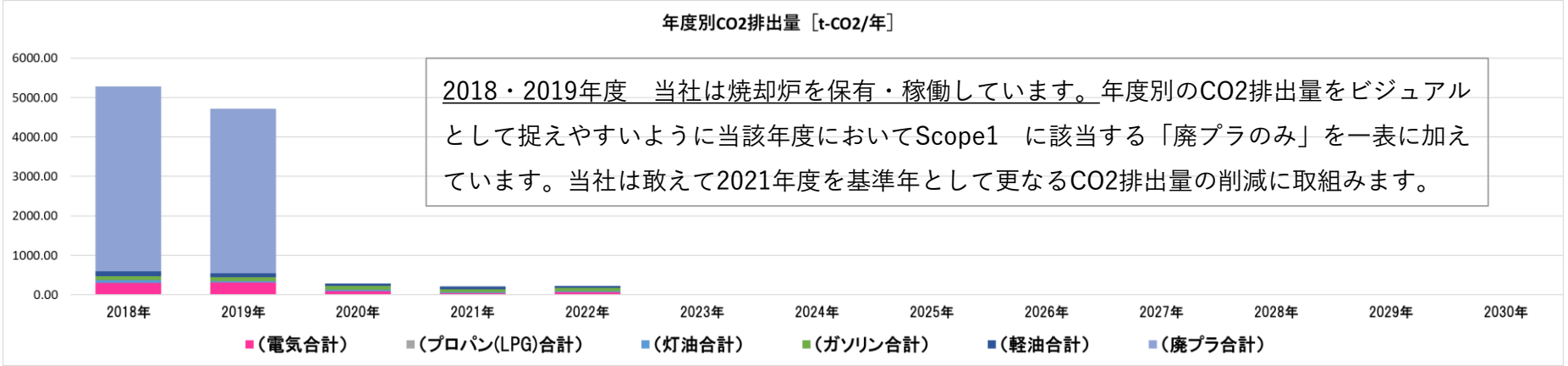
主な要因は22年度の売上が昨年対比217.87%と伸長したことにより社内CO2削減活動を上回ったためです。一方、売上高原単位の評価には一定の結果が反映されています。

軽油については51.92 t-CO2 昨年比72.00%

要因としては、脱炭素社会実現のため、当社リサイクルセンター「破砕プラント休止」による燃料減となります。

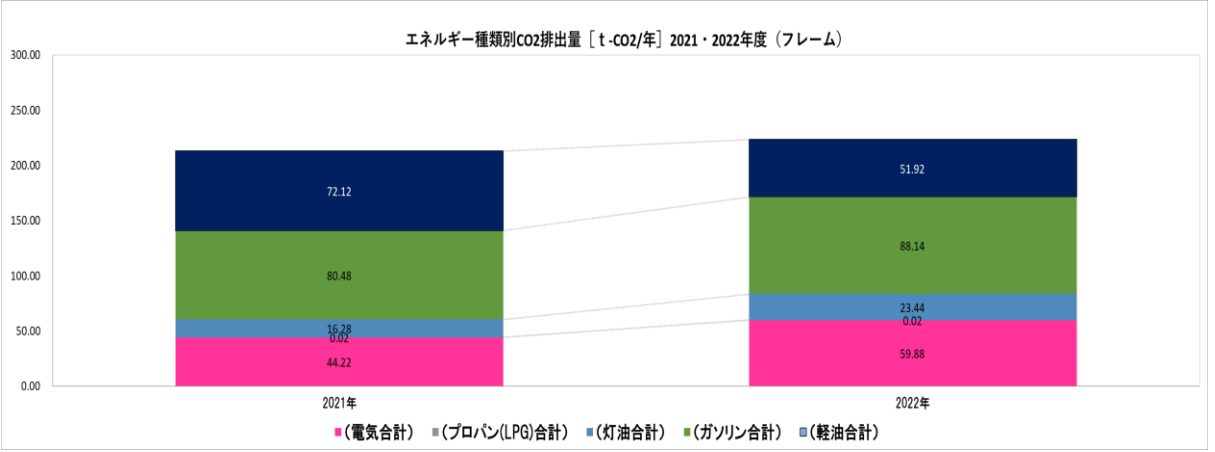
項 目		年 度	2021年	2022年		2023年	
			(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
電気・CO2削減	売上高原単位	kWh	114,230.00	108,895.46	120,049.00	103,560.92	
		基準年度比		95.33	105.09	90.66	
		Kwh/千円	0.0806	0.0768	0.0389	0.0731	
	売上高原単位	t-CO2	44.22	42.16	59.88	40.09	
		基準年度比		95.33	135.42	90.66	
		kg-CO2/千円	0.0312	0.0297	0.0194	0.0283	
プロパン・CO2削減	売上高原単位	kg	3.60	3.43	3.70	3.26	
		基準年度比		95.33	102.78	90.66	
		kg/千円	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
	売上高原単位	t-CO2	0.02	0.02	0.02	0.02	
		基準年度比		95.33	102.78	90.66	
		kg-CO2/千円	0.0000	0.0000	0.000	0.0000	
灯油・CO2削減	売上高原単位	ℓ	6,537.61	6,232.30	9,416.00	5,927.00	
		基準年度比		95.33	144.03	90.66	
		ℓ/千円	0.0046	0.0044	0.0030	0.0042	
	売上高原単位	t-CO2	16.28	15.52	23.44	14.76	
		基準年度比		95.33	144.03	90.66	
		kℓ-CO2/千円	0.0115	0.0109	0.0076	0.0104	
ガソリン・CO2削減	売上高原単位	ℓ	34,664.42	33,045.59	37,964.52	31,426.76	
		基準年度比		95.33	109.52	90.66	
		ℓ/千円	0.0245	0.0233	0.0123	0.0222	
	売上高原単位	t-CO2	80.48	76.72	88.14	72.96	
		基準年度比		95.33	109.52	90.66	
		kℓ-CO2/千円	0.0568	0.0541	0.0285	0.0515	
軽油合計・CO2削減	売上高原単位	ℓ	27,899.24	26,596.35	20,086.28	25,293.45	
		基準年度比		95.33	72.00	90.66	
		ℓ/千円	0.0197	0.0188	0.0065	0.0178	
	売上高原単位	t-CO2	72.12	68.75	51.92	65.38	
		基準年度比		95.33	72.00	90.66	
		kℓ-CO2/千円	0.0509	0.0485	0.0168	0.0461	
SCOPE1		t-CO2	168.89	161.01	163.53	153.12	
SCOPE2		t-CO2	44.22	42.16	59.88	40.09	
SCOPE1+2 (TOTAL)		t-CO2	213.12	203.16	223.41	193.21	
産業廃棄物の削減（4月-3月/年）3R実践協定勘案	売上高原単位	t	5,942.27	3,645.50	3,508.90	3,022.00	
		基準年度比		61.35	59.05	50.86	
		kg/千円	4.19	2.57	1.14	2.13	
水道水の削減	売上高原単位	m ³	517	509	511	501	
		基準年度比		98.50	98.84	97.00	
		ℓ/千円	0.365	0.359	0.017	0.354	

7.取組結果

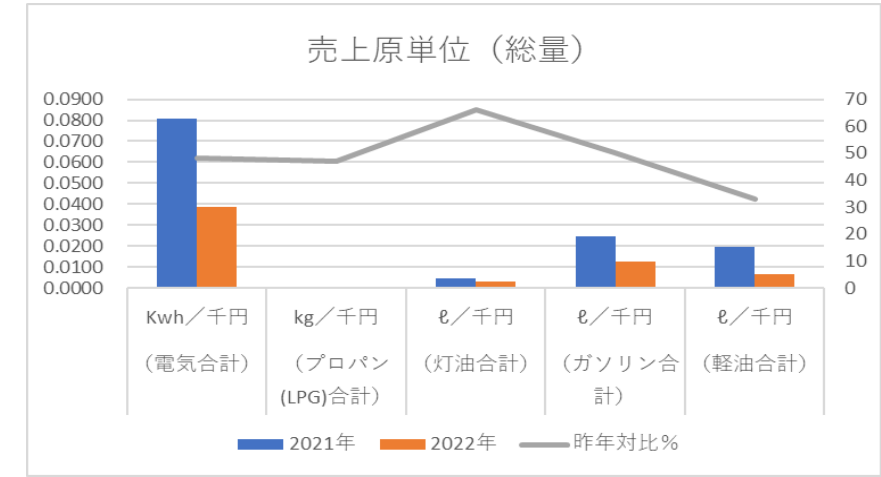
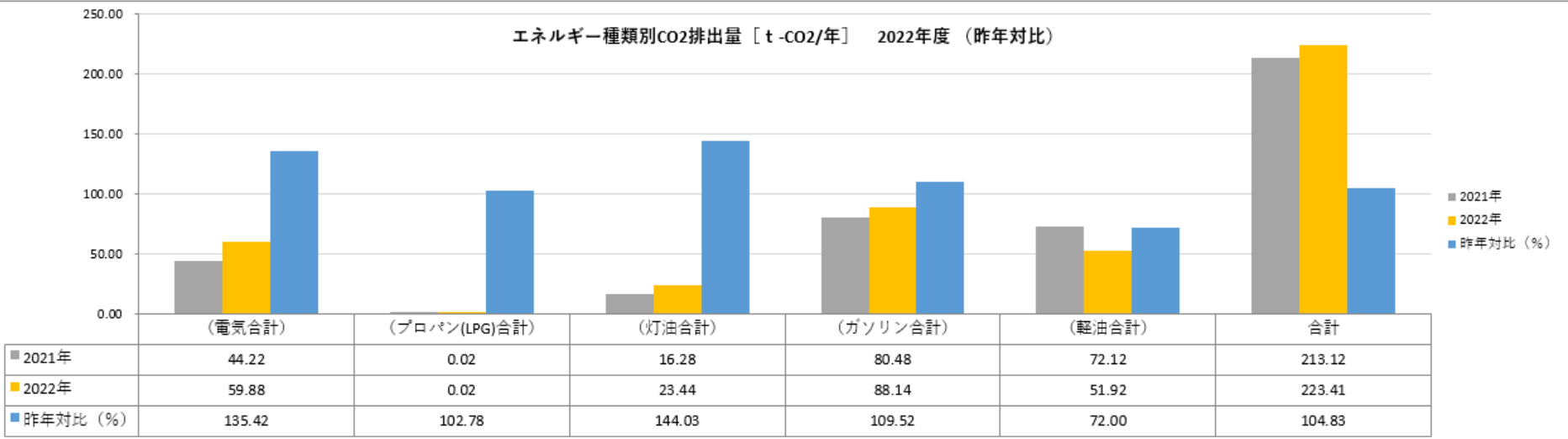


t-CO2/年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
(電気合計)	300.37	303.55	81.72	44.22	59.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(プロパン(LPG)合計)	0.06	0.11	0.25	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(灯油合計)	69.80	45.02	46.39	16.28	23.44	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(ガソリン合計)	103.27	96.10	93.31	80.48	88.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(軽油合計)	118.63	99.73	67.18	72.12	51.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(廃プラ合計)	4692.05	4177.31	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	5284.19	4721.81	288.84	213.12	223.41	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

t-CO2/年	2021年	占有率	2022年	占有率
(電気合計)	44.22	20.7%	59.88	26.8%
(プロパン(LPG)合計)	0.02	0.0%	0.02	0.0%
(灯油合計)	16.28	7.6%	23.44	10.5%
(ガソリン合計)	80.48	37.8%	88.14	39.5%
(軽油合計)	72.12	33.8%	51.92	23.2%
(廃プラ合計)	0.00	0.0%	0.00	0.0%
合計	213.12	100.0%	223.41	100%

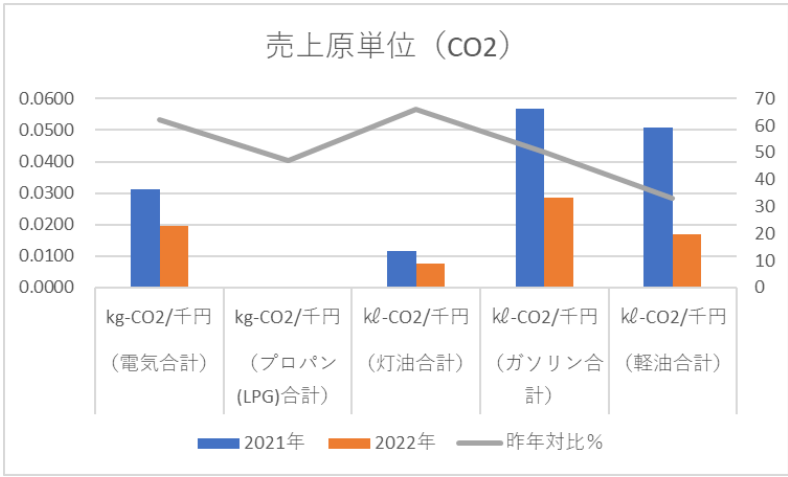


7.取組結果



売上原単位（総量）

	単位	2021年	2022年	昨年対比%
(電気合計)	Kwh/千円	0.0806	0.0389	48.24
(プロパン(LPG)合計)	kg/千円	0.0000	0.0000	47.17
(灯油合計)	ℓ/千円	0.0046	0.0030	66.11
(ガソリン合計)	ℓ/千円	0.0245	0.0123	50.27
(軽油合計)	ℓ/千円	0.0197	0.0065	33.05



売上原単位（CO2）

	単位	2021年	2022年	昨年対比%
(電気合計)	kg-CO2/千円	0.0312	0.0194	62.16
(プロパン(LPG)合計)	kg-CO2/千円	0.0000	0.0000	47.17
(灯油合計)	kl-CO2/千円	0.0115	0.0076	66.11
(ガソリン合計)	kl-CO2/千円	0.0568	0.0285	50.27
(軽油合計)	kl-CO2/千円	0.0509	0.0168	33.05

7.取組結果

マテリアリティ	指標	単位	2021年度		2022年度		2023年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績
■Environment: 持続可能な社会の実現								
・脱炭素社会への貢献	・CO2排出量削減（Scope1+2）	t -CO2	新設	-	▲4.67%	4.83%	▲9.34%	
・循環型社会、自然共生社会への貢献	・中規模木造建築の推進 施工実績	件	-	-	-	-	新設	-
	・産業廃棄物の排出量削減（売上原単位）	kg/千円	新設	4.19	2.57	1.14	2.13	
	産業廃棄物量	t	新設	5942.27	3,645.50	3,508.90	3,022.00	
	・水道水の削減（売上原単位）	ℓ /千円	新設	0.365	0.359	0.017	0.354	
	・水道使用量	m³	新設	517	509	511	501	
	・グリーン購入法適合品	品目	-	-	-	-	新設	-
■Social: 安全で快適な社会の実現								
・品質向上と顧客満足度の向上	・社内「基準」による品質パトロール実施率	%	新設	-	100%	100%	100%	
	・（土木）工事成績評定点対象年度平均点	点	80点以上	84点	80点以上	88点	80点以上	
	・（建築）お客様満足度アンケート	点	-	-	-	-	新設	-
■Governance：働きがいのある魅力的な職場環境の実現								
・ワークライフバランスの推進	・定年再雇用率・継続雇用率	%	90%以上	-	90%以上	100%	90%以上	
	・離職率	%	5%未満	0%	5%未満	8.3%	5%未満	
	・有給休暇取得率	%	50%以上	61.0%	50%以上		50%以上	
	・男性社員の育児休業の取得率	%	100%	-	100%	-	100%	
・労働安全衛生の推進	・死亡・重大災害の発生件数	件	0件	0件	0件	0件	0件	
	・安全衛生大会（2年に一度の開催）	回	-	-	1回	1回	-	-
・コンプライアンス	・重大なコンプライアンス違反	回	0回	0回	0回	0回	0回	
	・情報セキュリティ事故件数	回	0回	0回	0回	0回	0回	
	・BCP訓練実施率	回	1回	1回	1回	1回	1回	

（ご参考）

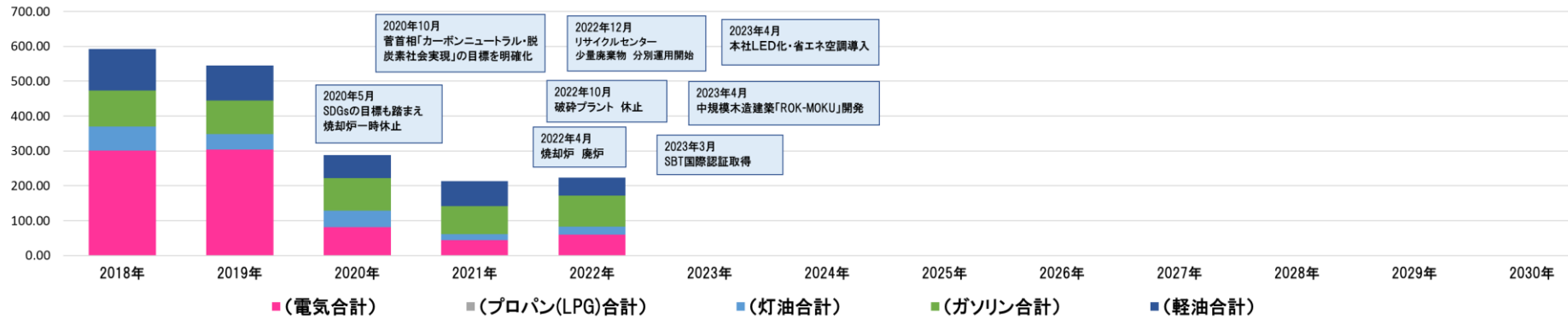
項目		単位	2021年度	2022年度
社員数	（ ）内は女性	人	36（7）人	34（7）人
女性社員比率		%	19.4%	20.6%
平均年齢		歳	50.3歳	50.8歳
項目		単位	2021年度	2022年度
取締役の構成	取締役	人	3人	4人
監査役の構成（会計限定監査）	監査役	人	1人	1人
取締役会		回	4回	4回
取締役会出席率		%	100.0%	100.0%

8.サステナビリティ活動報告

年	月	内 容
2019	10	長野県SDGs（持続可能な開発目標） 第2期登録
2020	5	長野県SDGsの目標も踏まえ、稼働する焼却炉を一時休止
2022	4	焼却炉の廃炉
2022	5	中期5ヵ年経営計画 目指すべき姿として Sustainable Construction（持続可能な建設）を掲げる
2022	7	諏訪信用金庫主催 脱炭素経営入門セミナー参加（中小企業版SBT） アドバイザー：独立行政法人中小企業基盤整備機構
2022	7	エネルギー使用量調査 開始（Scope1・Scope2）
2022	9	中小企業基盤整備機構 カーボンニュートラル オンライン相談 中小企業版SBTの概要及び今後の支援について
2022	10	破砕プラント休止
2022	10	第1回 中小企業基盤整備機構CN支援（当社打合10-16時） CO2排出量の集計の方向性
2022	11	第2回 中小企業基盤整備機構CN支援（WEB13-16時） 削減目標を達成するために何ができるか
2022	12	リサイクルセンター少額工事の少量廃棄物 分別運用開始
2022	12	SBT申請
2023	1	第3回 中小企業基盤整備機構CN支援（WEB13-16時） SBT認証のその先を見据えた広報活動等について
2023	3	SBT（Science Based Targets） 国際認証を取得
2023	4	中規模木造建築としてサステナビリティブランド「ROK-MOKU（ロクモク）」を開発
2023	4	本社LED化・省エネ空調設備導入

8.サステナビリティ活動報告

年度別CO2排出量 [t-CO2/年]



2022年 4月 焼却炉の廃炉

産業廃棄物処理業を兼業している建設業は周辺地域には無く、建造物の解体後の処理まで一括して行える事は当社にとって大きな強みでした。しかし焼却炉の老朽化に伴う修繕費の増加に加え、同じ商圏内で大型焼却炉が設置されたこと、更にSDGsを経営の軸として捉えた中で脱炭素経営を推進する際焼却という処理方法が果たして適切なのかという想いもあり、焼却業務からの脱却を決意し廃炉いたしました。これから先を見据えた時にこれまでの経験を活かして「環境」という分野において地域No1の建設業を目指そうと考えました。



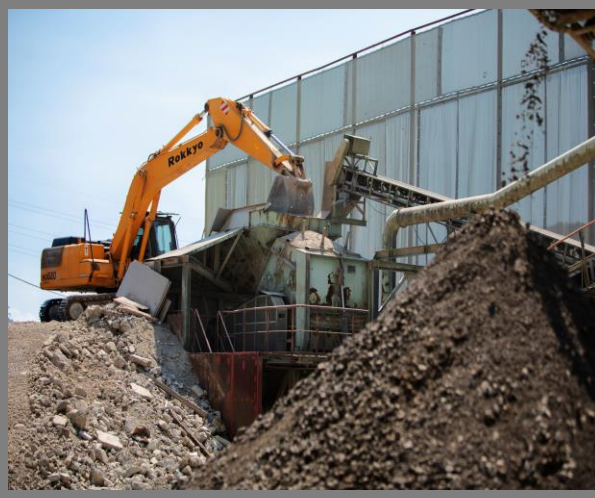
8.サステナビリティ活動報告

(焼却炉の解体時)



2022年 10月 破碎プラント休止

脱炭素社会並びに循環型経済（サーキュラーエコノミー）を推進するリサイクルセンターへ転換する決意のもと、持続的・発展的な成長のためコンクリートガラを再生砕石化する破碎プラントを休止いたしました。



8.サステナビリティ活動報告

2022年 12月 リサイクルセンター 少額工事の少量廃棄物の分別について

将来的な事業再構築などを鑑み、法令順守のもと当社のリサイクルセンターにおいて、少額工事の少量廃棄物の分別について社内運用を開始いたしました。



長野県産業廃棄物3R実践協定締結について

長野県の良い生活環境を保全し、次世代へ引き継いでいくため、産業廃棄物に関する情報公開を積極的に行い、地域との協調を図りながら、産業廃棄物の一層の減量、再資源化及び適正処理を実践するため、長野県と「長野県産業廃棄物3R実践協定」を締結しています。現場でも分別回収の徹底を実施。



8.サステナビリティ活動報告

2023年 4月 中規模木造建築としてサステナビリティブランド「ROK-MOKU（ロクモク）」を開発

当社は中規模木造建築としてサステナビリティブランド「ROK-MOKU（ロクモク）」を開発し、今後も公共施設・福祉施設生産施設等、様々な用途での中規模木造建築物の木造化と木質化を推進してまいります。

総合建設業として鉄骨造／鉄筋コンクリート造／鉄骨鉄筋コンクリート造について多くの施工管理ノウハウを保有しておりますが、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」「炭素の貯蔵につながる木材利用」など木材利用促進の流れを受け、中規模木造建築事業を戦略的に強化するため、2022年よりナイスプレカット株式会社（神奈川県横浜市鶴見区／代表取締役社長：湯田 貞博）と協業し、当社の企画商品「商業施設向け・中規模木造建築」として事業を拡大するに至りました。

中規模木造建築 サステナビリティブランド「ROK-MOKU（ロクモク）」 （以下、商業施設向け）

- ・平行弦トラス工法により、一般流通材を活用して10m～20m程度までのスパンを飛ばす技術を利用します。
- ・木材は熱伝導率の低さから高い断熱性を有し省エネにも貢献します。
- ・建物重量が軽くなり、杭工事や基礎への負担が軽くなるので、コスト面でも有利に働く場合があります。
- ・炭素の貯蔵につながります。林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」より

（イメージ）



木の持つ魅力と可能性を追求し、中規模木造建築事業の取り組みを通じて地球温暖化を防ぎ、持続可能で豊かな社会の実現に貢献してまいります。

8.サステナビリティ活動報告

2023年 4月 本社LED化

- ・高い省エネ性能などを持ち合わせるLED、本社1階～6階のすべての照明をLEDに交換いたしました。（排出削減量7,297kg-CO2／年 削減率78%）
- ・長野県でも「暑い夏」が到来します。 そのため、6階の空調設備については「省エネタイプの空調機」を導入いたしました。



2023年 4月 本社6階空調設備について、省エネタイプの空調設備を導入



8.サステナビリティ活動報告

地域環境活動

環境保全活動及び地域貢献活動の一環として「下諏訪町をゴミのない清潔なまちにする」ため、定期的にゴミ拾いを実施しています。



当社リサイクルセンターは、江戸時代に整備された五街道のひとつ、中山道<54番目の樋橋（とよはし）一里塚>に面しております。中山道ウォーキングを楽しまれる方もおり、地域文化活動を兼ねて定期的に清掃活動を実施しています。



8.サステナビリティ活動報告

ネイチャーポジティブへの貢献

地域の自然を将来にわたって保全し、価値を高め、生物多様性に配慮した産業を推進する必要があります。地域の魅力を高め地域産業の付加価値の向上や教育、福祉、防災・減災等に地域の生物多様性を活かすことに繋げていくことが重要と考え、当社は今後も建設業である強みを生かしてまいります。



当社ではエシカル活動も動きはじめています。 脱廃プラより紙製ファイルへの移行や名刺についても人にも環境にもやさしいエシカル名刺の導入を検討しています。（当社試算ではポリプロピレンのクリアファイルは、紙製ファイルの4.5倍のCO2を排出します。）



8.サステナビリティ活動報告

安全衛生管理について

「令和4年度 安全衛生大会」について、感染対策に十分に配慮したうえでハイブリッド型で開催、講師の方々をお招きし当社社員並びに協力会社の約100名の参加により無事に会が執り行われ労働災害ゼロを誓いました。（現在、2年に一度の開催を原則としています）



毎月、労働安全衛生のパトロールを実施していますが、2022年度より新たに現場や当社リサイクルセンター内での産業廃棄物の分別状況などについて環境パトロールも実施しています。



8.サステナビリティ活動報告

事業継続計画（BCP）に基づく災害時訓練

地域の建設業は厳しい自然環境において、災害から人々の生活を守る重要な役割を担っています。緊急対策本部設置訓練では災害事例より、各フェイズ（BCP発動フェイズ・回復フェイズ・復旧フェイズ）での対応について目線合わせを毎年1回実施します。



毎年1回実施する災害時訓練においては、自衛消防隊を編成し、通報・初期消火・屋外階段を使った避難誘導及び安否確認など一連の流れを確認します。また、AED（自動体外式除細動器）を用いた実技訓練などもおこないます。



8.サステナビリティ活動報告

健康経営優良法人に認定

「歩くアプリ」の導入、その他ではエンゲージメント向上も兼ねて社内ボーリング大会など、多くの施策にチャレンジしています。



2023
健康経営優良法人
Health and productivity



健康ブースの設置

健康経営の一環として、視力測定や血圧計などを設置、今後も取組みを強化していきます。



8.サステナビリティ活動報告

六協 エンゲージメント 誕生日月を迎えた全社員へ健康グッズのプレゼント

社内行事も行えなかった新型コロナ禍「これからも健康な日々でありますように」毎年・誕生日月を迎えた全社員へ健康グッズをプレゼントしています。



長野県「職場いきいきアドバンスカンパニー」 ワークライフバランス & ネクストジェネレーション 認証

働きがいのある魅力的な職場環境の実現のため、11時間以上のインターバル制度などを導入。 多様な働き方ができるよう制度の拡充に努めています。



9.経営環境、経営戦略及び優先的に対処すべき課題

第55期（自2022年5月1日 至2023年4月30日）は前年度からの繰越工事もあり、例年以上の売上高を確保する事が出来たものの、国内の物価上昇や先行き不透明な海外情勢の影響により、工事原価が安定せず、加えて物流費や原材料費の高騰も重なりました。この原価上昇分を価格転嫁する事が出来ず、その結果、利益を圧迫する形となりました。

このような状況は今後も続くと考えられており、更に労働力の慢性的な不足による工事の遅れ、働き方改革に伴う工事期間の延長による年間完工高の低下等、一層厳しい経営環境が続くものと考えられます。

当社は中期経営計画にて「Sustainable Construction（持続可能な建設）」をビジョンとして掲げております。厳しい経営環境の中、選ばれ続ける企業であるために様々な社会課題と向き合い、その解決に向けた取組としてサステナブル経営を実践し、環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance）の3つの観点から当社と社会の共存共栄を目指して持続可能な建設業を実現していきます。

- ・S B T（温室効果ガス排出削減目標）によるカーボンニュートラルへの取組の実践
- ・リニア型（消費型）の業務フローからサーキュラー型（循環型）の業務フローへの移行
- ・CSV活動の導入により、経済的価値と社会的価値を両立する共通価値を創造し、共有するパートナーを拡大する

経営理念 “共に生きる”

社 是

至 誠

誠を尽くす 常に真心と感謝の気持ちをもつ

社 訓
(行動理念)

真摯な心

「至誠」をもって、真面目で
ひたむきに 仕事・人・社会
と向かい合うこと。

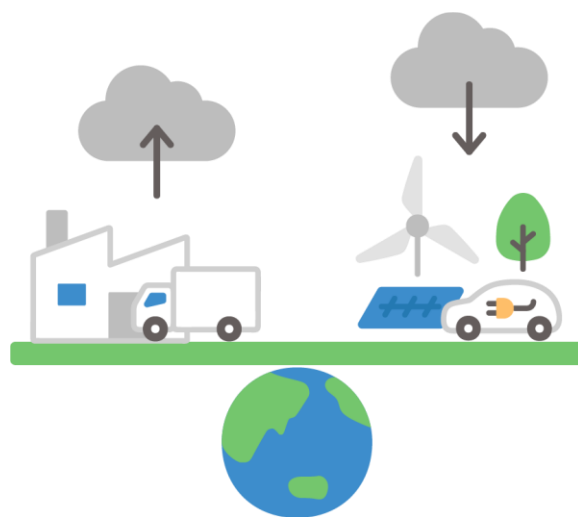
最善を求める

現状を良しとせず、常に問
い、最善を探究すること。

熟慮し行動

創業者の「先々の先」
（常に先を見通す）をもっ
て、様々な場面やあらゆる
可能性を想定し、深く考え、
そしてスピード感をもって忍
耐強くやり遂げること。





株式会社 六 協

Rokkyo Co., Ltd.